

令和4年度までに聴取した意見等に対する対応状況

令和4年度までに寄せられたステークホルダーからのご意見、ご要望等に対する対応状況

佐賀大学では、よりよい大学運営や教育内容・方法の改善等に役立てるために、本学のステークホルダー（学生、卒業（修了）生、新入生、ご家族、教職員、学外の各委員及び関係者、地元企業の皆様、地域の皆様など）からさまざまなご意見・ご要望等をいただきました。それらの対応状況を公開いたします。今後とも、地域とともに発展しつづける大学であるために、いただいたご意見等に対し改善に向けて努力してまいります。

【令和4年度意見聴取（令和5～6年度 意見対応） 令和7年3月31日現在】

整理番号	ご意見をいただいたステークホルダー区分	事業等の名称	ご意見、ご要望等の内容	大学の対応（R6.3.31）	対応状況の点検（R7.3.31）
1	佐賀大学広報誌「かちがらす」第46号読者アンケート回答者	佐賀大学広報誌「かちがらす」第46号読者アンケート（広報誌についてご意見・感想）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○取り上げてほしいテーマ <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の学生の過ごし方</li> <li>・サークルの紹介</li> <li>・就活生の取り組みについて</li> <li>・佐大生の1日</li> <li>・地域との関係、防災への取り組み</li> </ul> </li> <li>○意見・感想 <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼントがあると嬉しい</li> <li>・社会に出て活躍している先輩を取り上げて欲しい</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果で多かった意見に関しては、以降の広報誌上で積極的に取り扱っています。</li> <li>・49号でサークルについて特集しています。</li> <li>・「先輩からのメッセージ」は、これまで新人や若手が中心でしたが、48号より対象者の年齢を幅広く設定しました。読者アンケートでは、保護者も勉強になるとのご意見をいただいています。</li> <li>・47号から始めた読者プレゼントは、以降の号でも継続しています。その結果アンケート回収率が以前の3～4倍まで増加しました。また、読者プレゼントのグッズも好評であったことから、佐賀大学生協同組合において佐賀大学オリジナルグッズとして販売することが決定しました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・51号及び52号では、ご意見にあった社会で活躍する卒業生を特集した「社会で輝く先輩からのメッセージ」のページを設け、幅広い分野で活躍する卒業生を紹介しました。</li> <li>・取り上げてほしいテーマにあった「地域との関係、防災への取り組み」については、52号で、佐賀県と連携して土砂災害検知システムを開発した農学部宮本教授について、研究内容を紹介するページを設けました。</li> <li>・読者プレゼントについても、ステッカーやエコバッグ、ポーチ等のカッチーくんグッズを制作し、当選者に送付しています。</li> </ul>
2	佐賀大学広報誌「かちがらす」第47号読者アンケート回答者	佐賀大学広報誌「かちがらす」第47号読者アンケート（広報誌についてご意見・感想）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○取り上げてほしいテーマ <ul style="list-style-type: none"> <li>・カッチーくんの特集</li> <li>・大学生のイベント・行事</li> <li>・地域との取り組み 共同研究について</li> <li>・起業した学生・卒業生のインタビュー</li> <li>・大学設備、学習環境</li> </ul> </li> <li>○意見・感想 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな字がありがたい</li> <li>・子どもの食生活を知りたい</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果で多かった意見に関しては、以降の広報誌上で積極的に取り扱っています。</li> <li>・48号の特集でリススキルプログラムを通して地域との取り組みを紹介しました。</li> <li>・49号で大学生のイベントについて取り上げました。</li> <li>・誌面レイアウトについては、ライターとも相談し、写真を多く使用するレイアウトにしています。また、文字が密集する部分では、背景の色を工夫することで見やすくしています。</li> <li>・常に学生の生活が保護者に伝わるように心がけており、「誌面を通して子供の生活が想像できます」というご意見も多くいただいています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り上げてほしいテーマとして挙がっていた「卒業生のインタビュー」については、51号で「社会で輝く先輩からのメッセージ」として掲載しました。</li> <li>・公式YouTubeチャンネルで配信している「さきどり情報局」では、定例会見で発表された本学の研究・取組について特集しました。</li> <li>・読者アンケートでは、学生の活き活きとした活躍等の特集を期待する声が多数挙がっていますので、引き続き、学生の生活や大学の動き等が保護者の方々等に伝わるように心がけた誌面作りを行ってまいります。</li> </ul>
3	来てみんない佐賀大学へ参加者	来てみんない佐賀大学へ企画参加者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生との交流が刺激になる</li> <li>・大学のトピック、話題に関する講演に興味がある</li> <li>・市民の交流の場を増やして欲しい</li> <li>・大学の設備で専門的な知識が学べて嬉しい</li> <li>・イベントを増やして欲しい</li> <li>・生活に役立つ企画に期待する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての企画で大学生が協力し、市民の皆さまとの交流の場となっています。</li> <li>・大学の専門性を活かした企画を実施、多くの市民の方にご参加いただいています。</li> <li>・一つの企画で3つのイベントと2つのシンポジウムが開催されました。</li> <li>・地元佐賀空港の有効利用を考えるイベントや普段使用している石鹸がどのように作られるかなど、生活に密着した企画が開催されています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「来てみんない！佐賀大学へ」企画は、本学に親しみを持っていただくという目的が十分に達成され一定の成果を挙げたものと判断して終了しました。</li> <li>・令和6年度からは文科省が推進する「こども見学デー」に合わせて、対象を小・中学生に設定した企画を募集することとし、以下の2つの企画を実施しました。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 佐賀大学学長にインタビューをしよう！（ダイバーシティ推進室）</li> <li>2. 唐津にある佐賀大学農学部ではどんな研究をしているの？（アグリ創生教育研究センター）</li> </ol> </li> <li>今後も、大学と市民の皆様が交流できるような企画を行うように努めます。</li> </ul>

整理番号	ご意見をいただいたステークホルダー区分	事業等の名称	ご意見、ご要望等の内容	大学の対応 (R6.3.31)	対応状況の点検 (R7.3.31)												
4①	ホームカミングデー参加者 (佐賀大学卒業生、名誉教授)	第11回ホームカミングデー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 佐大出身者で、政治・経済・文化面で、特に活躍した方々をリストアップして紹介してほしい。</li> <li>・ 開催時期を見直して、学園祭と同時が良いと思います。</li> <li>・ 支援を受けている学生や佐大卒の教職員はできるだけ出席させるようにした方がいいと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き同窓会と連携し、活躍している同窓生の情報を収集し、リストを作成します。</li> <li>・ R5.10.28大学祭と同時開催でしたが、参加者は64名にとどまり目標には達しませんでした。参加者から現役学生も参加できるものを企画したらとのご意見がありましたので、大学祭中央実行委員会と連携して、現役学生も参加できるものを企画します。</li> <li>・ 支援した学生や同窓生である教職員への案内方法について、工夫して実施したいと考えています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第13回ホームカミングデーでは、大学発ベンチャー講演会として、在学生による起業した企業活動の取り組みについて講演を行いました。参加者アンケートでは、「学生時代に起業した若者たちの話を聞いて、嬉しく思いました。私も元気をもらいました。」「起業する学生に、基金を集めて支援することが必要と感じた。」などの意見をいただき好評を得ました。</li> <li>・ 校友会としては、大学発ベンチャーの活動を適宜Webサイトで紹介するなどにより支援策を充実していきます。</li> </ul>												
4②	ホームカミングデー参加者 (佐賀大学卒業生、名誉教授)	第11回ホームカミングデー	校友会の学生支援として、佐賀大学発ベンチャー企業への支援等は考えられないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き関係各署と協議し、校友会による学生の佐賀大学発ベンチャー企業への支援制度を設計します。</li> </ul>													
4③	ホームカミングデー参加者 (佐賀大学卒業生、名誉教授)	第11回ホームカミングデー	自由な環境と雰囲気のもとで、学生や若手教員の能力が十分に伸びるように長期的計画に従って施策を進めてほしい。特に、学生や若手教員の海外派遣を積極的に進め、海外の見識が深まるよう尽力していただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校友会で実施している学生活動支援事業の海外派遣奨励金及び国際交流奨励金を令和5年度は20万円増額した。</li> <li>・ また、校友間交流支援事業の海外版ホームカミングデー支援経費を20万円増額し、タイのバンコクで開催した。</li> <li>・ 以上のように海外派遣等の経費を充実して実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和6年度予算においては、校友間交流支援事業の海外版ホームカミングデー支援経費を80万円(対前年比20万円増額)として、ベトナムのハノイで開催しました。</li> </ul>												
5	奨学金受給学生	奨学金受給者との懇談会	基本教養科目の選択肢が少なく、更に抽選されるので、希望通りに受講できない。	令和5年度は新たに「データサイエンス Basic」等、オンデマンドで受講できる科目を複数科目追加し、受講できる科目を増やした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和6年度は新たに「STEAM学習基礎」を新規開講したほか、放送大学の教育協力型単位互換を開始し、受講できる科目を増やしました。</li> <li>・ 放送大学の導入科目のうち、56科目が受講可能で、1人につき2科目まで受講できます。</li> </ul> <p>受講実績は以下になります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>受講者数</th> <th>科目数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R6前期</td> <td>10名</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>R6後期</td> <td>5名</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>15名</td> <td>23</td> </tr> </tbody> </table>		受講者数	科目数	R6前期	10名	16	R6後期	5名	7	合計	15名	23
	受講者数	科目数															
R6前期	10名	16															
R6後期	5名	7															
合計	15名	23															
6	卒業(修了)予定者	卒業(修了)予定者を対象とした共通アンケート	学内のWi-Fiがつながりにくいことがあり、少し不便な時がありました。Wi-Fiの接続、更新がうまくできないことがありました。	Wi-Fi (000saga-u)接続開始時において、旧ネットワークでは多重に認証を要求していたため、一部の認証機構が過負荷となり繋がりにくい時間が発生していた。新ネットワークでは、1回の認証で済むように構成を変更し、あわせて認証サーバへ集中していた負荷の低減を図った。これにより、従来よりも接続操作が単純になりスムーズな接続を実現した。	対応済み												
7	佐賀県庁	TSUNAGIプロジェクト	<p>令和元年より毎年実施している佐賀県・佐賀大学連携調整会議において、本学の取組等の情報共有を行ってきた。</p> <p>本学の取組の成果が認められ、より強力に佐賀県内の地域課題の解決や県内の産業・学術の振興を図るため、令和4年度より佐賀県による研究支援事業「TSUNAGIプロジェクト」が、実施された。</p> <p>令和4年度では、19件の事業が採択されている。</p>	<p>令和5年度は令和5年7月19日に第7回、令和6年2月13日に第8回の佐賀県・佐賀大学連携調整会議を実施した。</p> <p>これまでの会議を通じて県に本学の取組が認められ、令和5年度TSUNAGIプロジェクトでは、継続事業が13件、新規事業が10件の計23件が採択され、県からの支援額は令和4年度に比べ、令和5年度は約2倍に増額した。</p> <p>また、TSUNAGIプロジェクトの事業の中で令和4年度からの継続事業である農学系 宮本准教授の研究が新聞やテレビなど多くのメディアで取り上げられた。この取り組みは今後2年ほどかけてデータ収集を行い、地域住民の避難を後押しするなど現行の土砂災害警戒情報を保管する技術となることが期待されている。</p>	本プロジェクトは3年間を一つの区切りとしており、令和4年度から開始したプロジェクトの一部は、県の担当課が令和7年度以降も継続して事業を推進するため予算化を検討いただいている。(対応済み)												

整理番号	ご意見をいただいたステークホルダー区分	事業等の名称	ご意見、ご要望等の内容	大学の対応 (R6.3.31)	対応状況の点検 (R7.3.31)
8①	附属図書館利用者	附属図書館本館利用者アンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気兼ねなく声を出してグループワークなどができる学習スペースを作ってほしい。</li> <li>・図書等の資料を充実させてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多目的学習スペースの開設以来1年間(令和4年10月～5年9月)で、延べ24,337人の入室があり、グループ学習やディスカッションとして利用されている。</li> <li>・シラバス図書については、令和5年度当初に約1,400冊の整備、充実を図った。</li> <li>また、教員推薦図書は112冊、学生WEB選書ツアーでは72冊整備した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多目的学習スペースは引き続きよく利用されており、令和5年度では約3万人の入室があった。グループ学習やディスカッションのスペースとして利用されており、また授業等にも活用されている。</li> <li>・シラバス図書約270冊、継続図書301冊、学科推薦図書340冊、教員推薦図書55冊、図書館推薦図書1,111冊、の整備、充実を図った。また、5年ぶりに開催した対面の学生選書ツアー(福岡市)で179冊、学生リクエストで56冊を整備した。さらに、2月より電子ブック482冊を整備した。引き続き学生の声に寄り添った選書を行う。</li> </ul>
8②	佐賀大学生・教職員(医学部)	附属図書館医学分館利用者アンケート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館内に配置しているデジタルサイネージの利活用について</li> <li>・図書の配置が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サイネージを設置してから今まで、図書館関連情報以外を掲示したことはないが、現在進行形で、教職員の方から、セミナー案内のサイネージ利用の相談を受けている。図書館の情報に関しては、以前より頻繁に新しい情報を掲示している。</li> <li>・図書の書架について、利用者のいない休館日等を利用し、配架している図書の高さが1段低くなるように調整を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度はデジタルサイネージに図書館関連情報以外として地域医療科学教育研究センターからの依頼で臨床実習コーディネーターの案内を追加した。</li> <li>また、4月に行った学生や教職員向けの図書館オリエンテーションの際にデジタルサイネージに案内を掲載できることを紹介している。</li> <li>・図書の書架は引き続き一番上の段に配架しないようにしている。</li> </ul>
9	学部後援会評議員(学生の保護者)	学部後援会評議員会	新型コロナウイルス感染症が流行している中、学生の課外活動等が制限されたり、就職活動もオンラインで行われたりと後援会費による学生支援・就職支援活動等ができていないため、もっと学生のために有効活用できないか。	令和4年度は、学部長から、普段の授業では招待できない著名な作家等による講演会開催を提案し、了承されたため、世界的に活躍されている美術家(川俣 正氏)による講演会を令和5年1月20日(金)に実施した。また、アートに関する事業活動家(深井桂子氏)による講演会を令和5年2月18日(土)に実施した。 令和5年度は、新型コロナウイルス感染症による活動制限もなくなったため、就職活動に係る旅費の支援や芸術鑑賞補助事業を実施し、学生を支援している。	対応済み
10	自治体(佐賀県、有田町)、有田商工会議所、有田産業関係組合(7)	有田キャンパス地域連絡会	有田キャンパスの多数の活動は、内容も魅力的なことをされていると実感したが、有田在住の産業関係者があまり知らないことは問題である。そこがちゃんとできると、これだけの企画が関係者に浸透していくとすごく良いのではないか。	学部及び肥前セラミック研究センターの教職員が、有田町並びに産業関係組合や窯元等の関係者を含めた情報連絡網(メーリングリスト)を作り、有田キャンパス事務室からイベントの案内等を一斉に広報している。令和5年度は5回メールを送付し、11件の情報発信を行った。また大学のプレスリリース配信を活用し、有田キャンパスの活動のみならず、芸術地域デザイン学部の活動をステークホルダーに発信している。	対応済み
11	附属病院に勤務する職員	医学部附属病院職員満足度調査	昨年度と同様に、賃金が安い、休暇が取りづらい、仕事が多すぎるとの意見を多くいただいている。また、「働き甲斐のある職場で大切なこと」には、人間関係のほか、業務に見合った賃金や仕事のやりがいなどが多く意見をいただいております。働き甲斐のある職場へ転換するために、相応の賃金や適切な人員配置が必要である。	職員満足度調査の調査結果については令和5年2月の病院企画室会議及び病院運営協議会において報告を行い、病院執行部や診療科長等の構成員と共有を図った。 また、令和5年1月31日開催の業務改善WGにおいても調査結果を共有し、寄せられた意見を踏まえて各部門の問題点を洗い出すこととされた。 その後、令和5年3月29日開催の業務改善WGでは、各部門が洗い出した問題点が提出され、WGにおいて共有された。今後の取り組みとして、短期的に改善を図るものと中期で改善できる問題とに分けて改善策を検討し、その評価を行うこととしている。 令和6年2月より、看護助手に月額6,000円を増額する待遇改善を実施した。	対応済み

整理番号	ご意見をいただいたステークホルダー区分	事業等の名称	ご意見、ご要望等の内容	大学の対応（R6.3.31）	対応状況の点検（R7.3.31）
12	医学部学生	100円昼食のアンケート	朝食や夕食を提供してほしい。	佐賀大学生協に相談した結果、朝食や夕食を営業するためには採算を見込める利用者数が必要であるが、現状昼間の短時間営業でも採算がとれていない状況であることから、これ以上の営業時間の拡大は難しいとのことであった。しかし、病院内の24時間営業のコンビニや、令和5年7月25日にリニューアルオープンした病院食堂が利用可能であることから、学生の利便性は確保できている。	対応済み
13	患者様	患者満足度調査	患者様の視点から見た病院運営の在り方について活用できると思われます。	令和4年度（令和5年1月30日～令和5年2月3日実施）の結果 外来患者：回答者数：595人、入院患者：回答者数：230人 ※概要版はこちらから <a href="https://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/guide/kaniyamanzoku/">https://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/guide/kaniyamanzoku/</a>	診察までの待ち時間対策として外来呼出しシステムを導入したことで待ち時間が可視化できた。立体駐車場が完成したことにより駐車場不足が解消した。
14	患者様及びその関係者様など	ご意見箱	患者様及びその関係者様など外部等の視点から見た病院運営の在り方及び病院サービス向上について活用できると思われます。	・ご意見については、必要に応じて病院内会議に報告するとともに、改善に向けた対応策を検討していきます。	対応済み